

---

# 市川町景気動向調査

---

2020年4-6月期

市川町商工会

# 目 次

I. 調査要領.....	- 1 -
1. 調査目的.....	- 1 -
2. 全国および兵庫県の経済動向調査.....	- 1 -
3. 管内調査.....	- 1 -
II. 全国および兵庫県の経済動向.....	- 2 -
III. 管内調査結果.....	- 3 -
1. 売上高の状況.....	- 3 -
2. 採算（経常利益）の状況.....	- 4 -
3. 資金繰りの状況.....	- 5 -
4. 人材の状況.....	- 7 -
5. 業況の状況.....	- 9 -
6. 設備投資の実施状況.....	- 10 -
7. 最も優先すべき経営上の課題.....	- 11 -

## 1. 調査要領

---

### 1. 調査目的

管内の中小・小規模事業者の景気動向について、その実態を把握すると共に、全国及び兵庫県内の情勢との違いを把握する。

### 2. 全国および兵庫県の経済動向調査

全国及び兵庫県の景気動向指数、中小企業景況、住宅着工件数、有効求人倍率、倒産件数の動向について整理した。

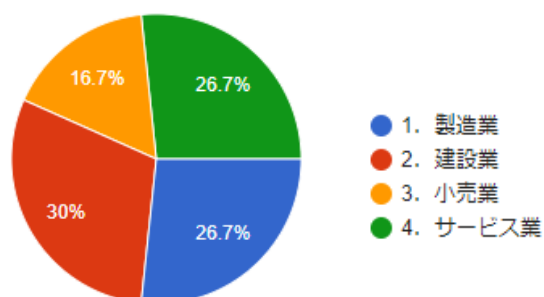
### 3. 管内調査

市川町商工会管轄内の企業を対象に、アンケート調査を実施した。

(1) 対象企業数…30企業

〈内訳〉

製造業	8社
建設業	9社
小売業	5社
サービス業	8社



(2) 調査方法…商工会の職員による訪問面接調査

(3) 調査対象期間…2020年4月から6月の第1四半期を対象とした。

#### ※指標について

本報告書のD Iとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目において増加・上昇・好転とした企業割合から、減少・低下・悪化とした企業割合を引いたものである。

## II. 全国および兵庫県の経済動向

### 景気総合指数

全国および兵庫県の先行・一致指数は、4月に大きく下がった。

	指数名	R2.2	R2.3	R2.4
兵庫県	先行	103.1	103.7	81.7
	一致	85.8	82.7	71.7
	遅行	99.5	95.9	96.6
全国	先行	91.5	85.1	76.2
	一致	93.7	88.8	81.5
	遅行	101.2	100.8	98.1

出所：「兵庫県の経済雇用情勢」

### 中小企業景況調査

兵庫県の中小企業の景況は悪化傾向が続いており、R2.4-6期は特に大幅なマイナス値となった。

前期比（「好転」－「悪化」）構成比（%）

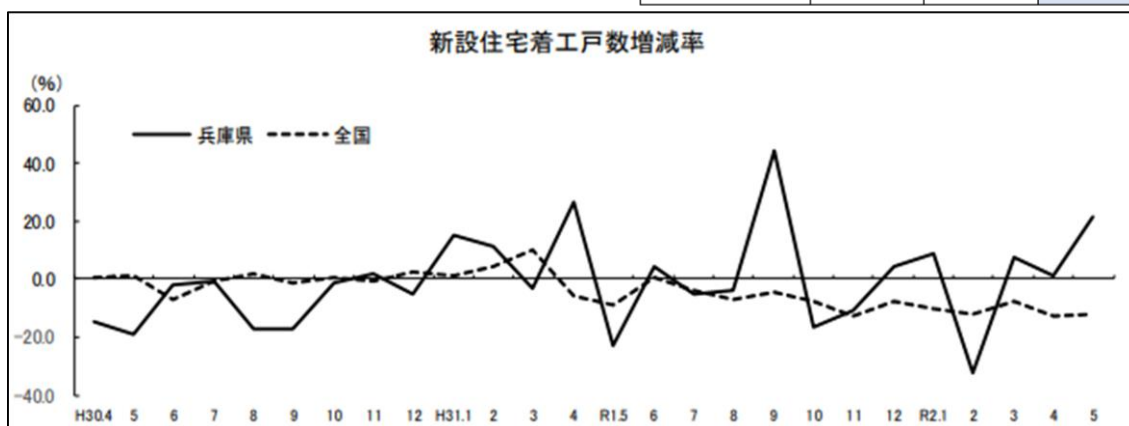
	R1.10-12	R2.1-3	R2.4-6
全産業	▲18.8	▲21.6	▲66.9
製造業	▲15.9	▲24.9	▲75.7
非製造業	▲20.5	▲20.3	▲63.5

出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構

### 住宅着工件数

兵庫県の新設住宅着工戸数は、3か月連続で前年同月を上回り、R2.5は前年度比で21.5%増加した。

	R2.3	R2.4	R2.5
戸数	2,867	3,250	2,286
前年度比(%)	7.5	0.8	21.5



出所：国土交通省

### 有効求人倍率

姫路管内の有効求人倍率（R2.6）は1.15倍、兵庫県では0.92倍となった。

	R2.6		
	姫路※	兵庫県	全国
有効求人倍率	1.15	0.92	1.11
新規求人数	3,334	27,953	756,004
前年度比(%)	▲10.0	▲13.0	▲18.3

※姫路市・宍粟市・たつの市・神崎郡・揖保郡を含む姫路ハローワーク管轄内

出所：厚生労働省、同兵庫労働局

### 倒産件数

全国および兵庫県の企業倒産件数は、R2.5に減少したが、R2.6の兵庫県倒産件数は増加して前年と同水準となった。

		R2.4	R2.5	R2.6
兵庫県	件数	43	10	49
	前年度比(%)	16.2	▲70.6	0.0
全国	件数	743	314	780
	前年度比(%)	15.2	▲54.8	6.3

出所：(株)東京商工リサーチ

### Ⅲ. 管内調査結果

#### 1. 売上高の状況

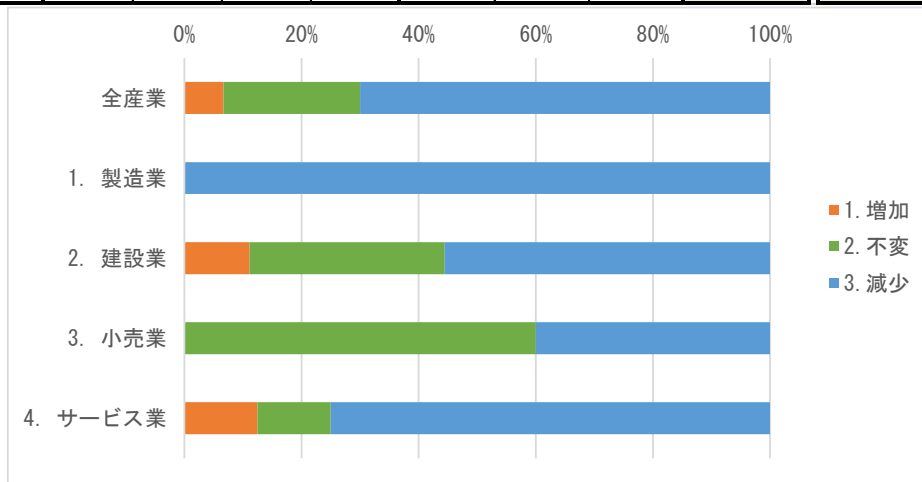
##### (1) 売上高D I

今期の全産業売上高D Iは▲63.3と、大幅なマイナス値となった。特に製造業では全社が減少しており▲100.0となった。

兵庫県と比較すると、製造業を除けば市川町の方がマイナス幅が小さい。全国と比較すると、小売業・サービス業では市川町の方がマイナス幅が小さかった。

図表1 業種別の売上高D I

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	7	21	30	6.7	23.3	70.0	▲ 63.3	▲ 80.0	▲ 69.0
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 80.5	▲ 71.1
2. 建設業	1	3	5	9	11.1	33.3	55.6	▲ 44.4	▲ 70.4	▲ 35.8
3. 小売業	0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 70.9	▲ 71.2
4. サービス業	1	1	6	8	12.5	12.5	75.0	▲ 62.5	▲ 89.1	▲ 79.9

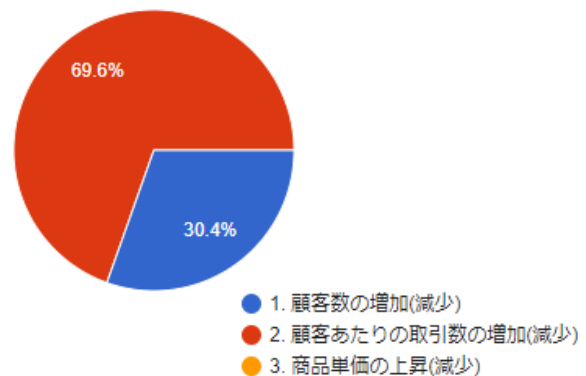


##### (2) 売上高が増加、または減少した理由

売上高が増減したと回答した事業所23所のうち、約7割が「顧客あたりの取引数の増減」を主な理由とした。

「顧客数の増減」を理由とした事業所は約3割あり、そのすべてが売上高が減少した事業所であった。

図表2. 売上高増減の理由



## 2. 採算（経常利益）の状況

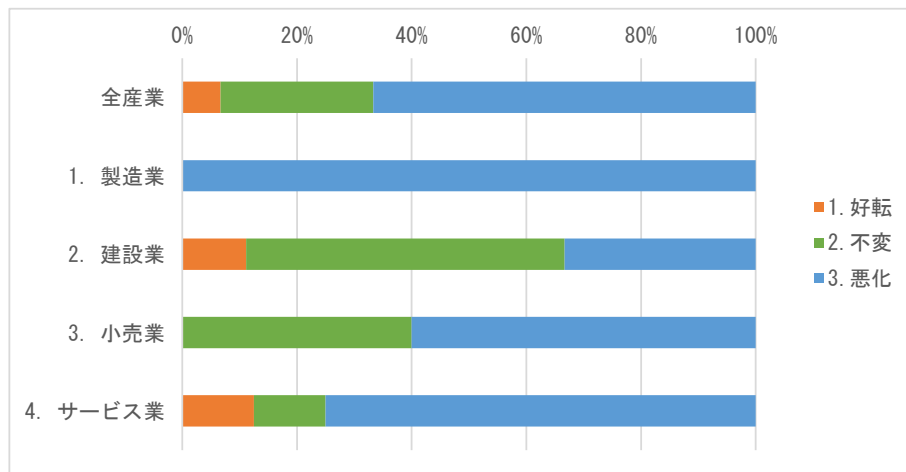
### (1) 採算D I

今期の全産業採算D Iは▲60.0と、大幅なマイナス値となった。特に製造業の採算が悪化している。建設業は比較的マイナス幅が小さかった。

兵庫県や全国と比較すると、製造業以外は市川町の方がマイナス幅は小さく、悪化の程度がまだと言える。

図表3 業種別の採算D I

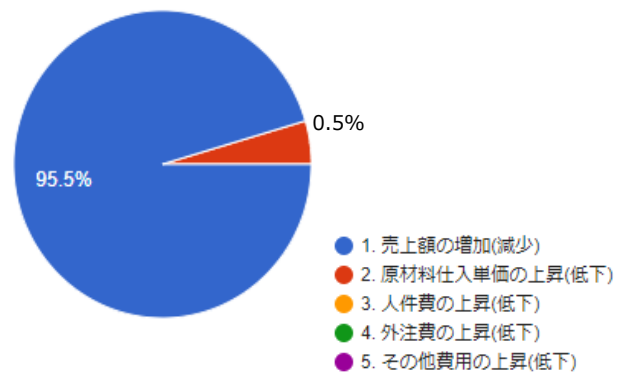
	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	2	8	20	30	6.7	26.7	66.7	▲ 60.0	▲ 71.3	▲ 61.7
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 76.2	▲ 63.6
2. 建設業	1	5	3	9	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 55.6	▲ 33.1
3. 小売業	0	2	3	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 66.6	▲ 62.7
4. サービス業	1	1	6	8	12.5	12.5	75.0	▲ 62.5	▲ 76.9	▲ 72.0



### (2) 採算が好転、または悪化した理由

採算が好転、または悪化したと回答した事業所22所のうち、ほとんどがその理由を「売上高の増減」にあるとした。仕入単価の影響を理由に挙げた事業所もあった。

図表4. 採算好転悪化の理由



### 3. 資金繰りの状況

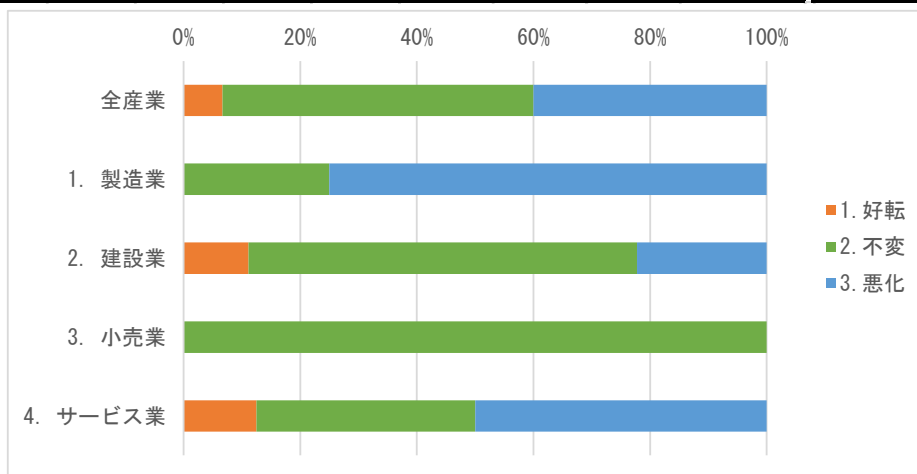
#### (1) 資金繰りDI

今期の全産業資金繰りDIは▲33.3となった。小売業は0.0で、前期と変わらない。最も悪化したのは製造業で、▲75.0であった。

兵庫県や全国では、全ての業種で大幅なマイナス値となっている。製造業以外の業種では、市川町より兵庫県や全国の方が資金繰りは悪化していると言える。

図表5. 業種別の資金繰りDI

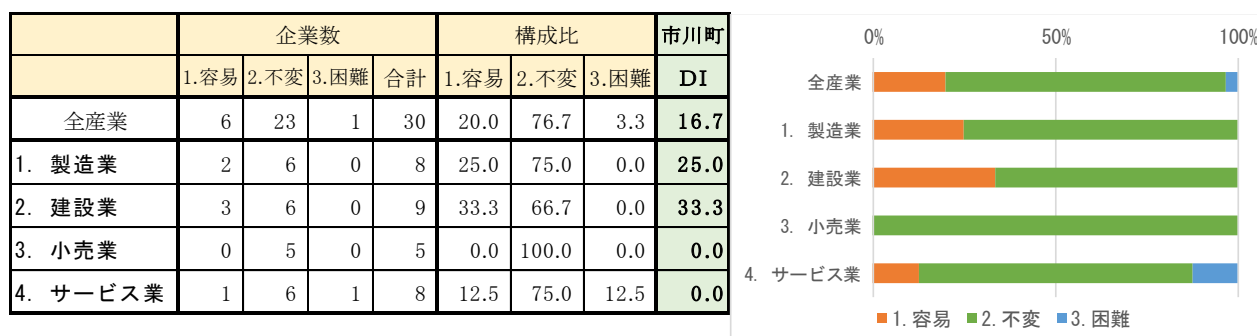
	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	2	16	12	30	6.7	53.3	40.0	▲ 33.3	▲ 60.6	▲ 48.8
1. 製造業	0	2	6	8	0.0	25.0	75.0	▲ 75.0	▲ 65.2	▲ 51.3
2. 建設業	1	6	2	9	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 66.7	▲ 22.5
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 56.2	▲ 48.9
4. サービス業	1	3	4	8	12.5	37.5	50.0	▲ 37.5	▲ 58.1	▲ 58.5



#### (2) 取引先からの資金回収

資金回収DIはプラス値又はゼロで、回収は比較的容易であることが伺える。

図表6. 業種別の資金回収DIの状況

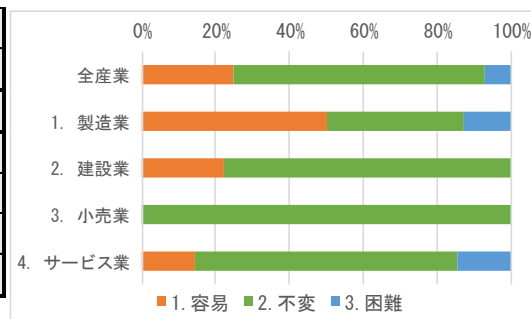


(3) 借入の容易さ

借入の容易さD I はプラス値又はゼロで、借入が困難になっている事業者は少ない。

図表 7. 業種別の借入D I の状況

	企業数				構成比			市川町 DI
	1.容易	2.不変	3.困難	合計	1.容易	2.不変	3.困難	
全産業	7	19	2	28	25.0	67.9	7.1	17.9
1. 製造業	4	3	1	8	50.0	37.5	12.5	37.5
2. 建設業	2	7	0	9	22.2	77.8	0.0	22.2
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0
4. サービス業	1	5	1	7	14.3	71.4	14.3	0.0





#### 4. 人材の状況

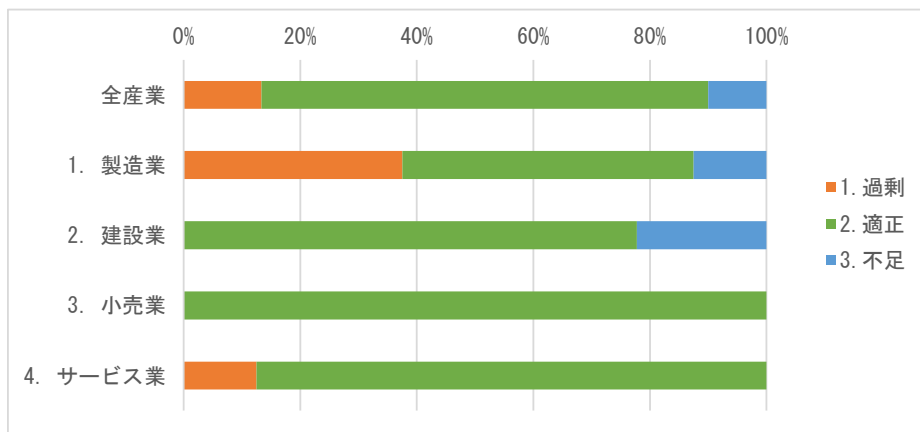
##### (1) 人材D I

今期の全産業人材D Iは3.3でわずかながらプラス値となり、人材はやや過剰となった。製造業やサービス業で過剰傾向であるものの、建設業で不足傾向である。

兵庫県や全国でも似た傾向が見られ、製造業とサービス業でやや過剰傾向、建設業と小売業で不足傾向となっている。

図表8. 業種別人材D I

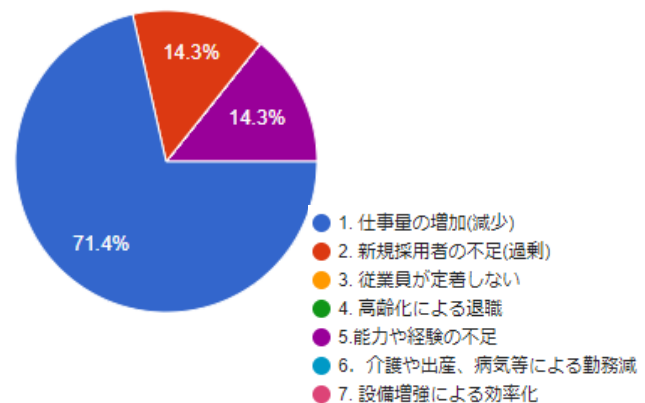
	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.過剰	2.適正	3.不足	合計	1.過剰	2.適正	3.不足	DI	DI	DI
全産業	4	23	3	30	13.3	76.7	10.0	3.3	1.1	—
1. 製造業	3	4	1	8	37.5	50.0	12.5	25.0	15.2	4.4
2. 建設業	0	7	2	9	0.0	77.8	22.2	▲ 22.2	▲ 19.3	▲ 24.1
3. 小売業	0	5	0	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 2.2	▲ 3.8
4. サービス業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	1.4	0.0



##### (2) 人材が過剰又は不足の理由

人材に過不足があると回答した7所で、最も多かった理由は「仕事量の増減(71.4%)」であった。その他には、「新規採用者の過不足」「能力や経験の不足」といった理由が挙げられた。

図表9. 人材過不足の理由

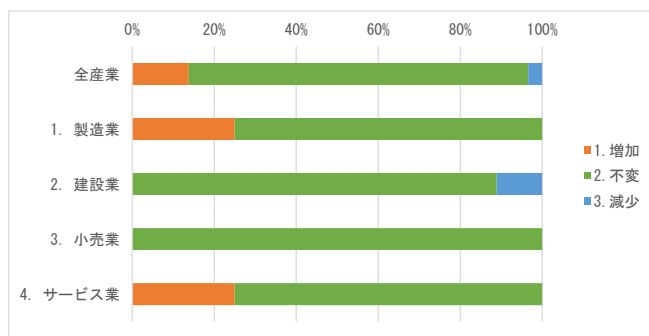


(3) 従業員数（含む臨時・パート）

従業員数D Iは、建設業を除いた3業種でプラス値又はゼロとなっており、従業員数は増加傾向にあると言える。一方、兵庫県や全国では全業種で不足傾向である。

図表10. 業種別の従業員数D I

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	4	24	1	29	13.8	82.8	3.4	10.3	▲ 14.1	—
1. 製造業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲ 13.1	▲ 10.6
2. 建設業	0	8	1	9	0.0	88.9	11.1	▲ 11.1	▲ 3.8	▲ 7.0
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 9.3	▲ 6.4
4. サービス業	2	6	0	8	25.0	75.0	0.0	25.0	▲ 21.7	▲ 14.6

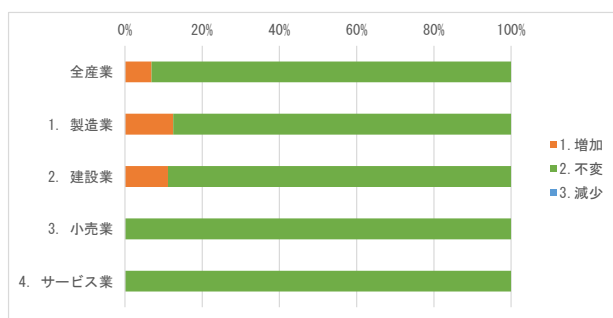


(4) 外部人材

外部人材D Iは、全ての業種でプラス値又はゼロとなった。兵庫県ではマイナス値となっているのに比べ、市川町内では外部人材が増加傾向にあると言える。

図表11. 業種別の外部人材D I

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.増加	2.不変	3.減少	合計	1.増加	2.不変	3.減少	DI	DI	DI
全産業	2	27	0	29	6.9	93.1	0.0	6.9	▲ 10.1	—
1. 製造業	1	7	0	8	12.5	87.5	0.0	12.5	0.0	▲ 10.7
2. 建設業	1	8	0	9	11.1	88.9	0.0	11.1	▲ 13.6	▲ 6.4
3. 小売業	0	4	0	4	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 13.8	▲ 7.5
4. サービス業	0	8	0	8	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 11.8	▲ 13.2



## 5. 業況の状況

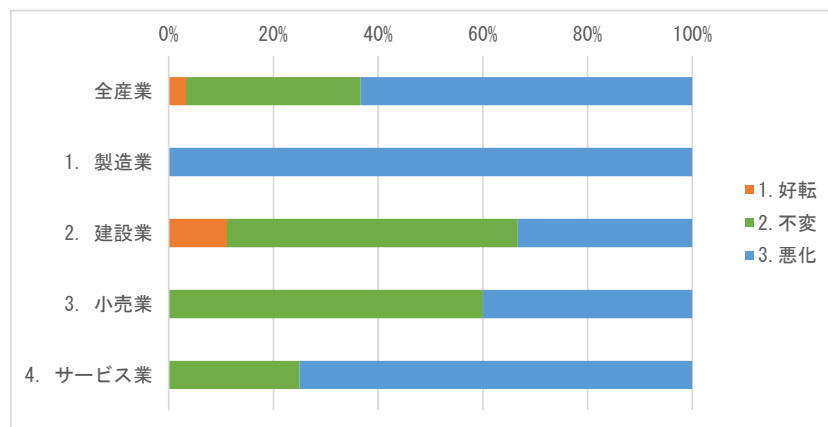
### (1) 業況D I

今期の全業種業況D Iは▲60.0と大幅なマイナス値となった。最もマイナス幅が大きいのは製造業の▲100.0で、景気の悪化が顕著である。マイナス幅が最も小さいのは建設業であった。

兵庫県や全国でも業況D Iは大幅なマイナス値となっており、兵庫県の業況は非常に厳しい状況にあると言える。

図表12. 業種別の業況D I

	企業数				構成比			市川町	兵庫県	全国
	1.好転	2.不変	3.悪化	合計	1.好転	2.不変	3.悪化	DI	DI	DI
全産業	1	10	19	30	3.3	33.3	63.3	▲ 60.0	▲ 77.9	—
1. 製造業	0	0	8	8	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 84.7	▲ 70.0
2. 建設業	1	5	3	9	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 66.7	▲ 34.5
3. 小売業	0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 62.6	▲ 66.8
4. サービス業	0	2	6	8	0.0	25.0	75.0	▲ 75.0	▲ 87.7	▲ 73.7



### (2) 業況判断の背景 (自由回答)

「新型コロナウイルスにより顧客が外出を控え客数が減った」「新型コロナウイルスの影響によりモノがなく、受注があっても売上につなげられなかった」「お客様の購入意欲の低下」など、新型コロナウイルスが関わっていると見られる回答が多数あり、コロナウイルスによる経済への影響が大きいことが浮き彫りになった。

新型コロナウイルスの影響以外には、「民間工事が無い」「人材不足」などの回答が見られた。「常に売上変動があるので気にしていない」との回答もあった。

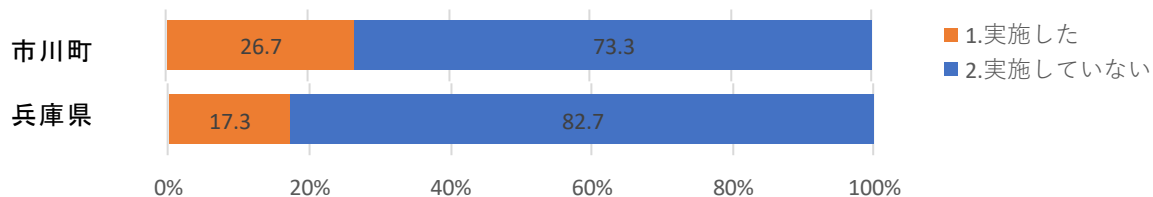
## 6. 設備投資の実施状況

### (1) 今期の設備投資

今期に設備投資した事業所は26.7%であった。兵庫県よりも市川町の方が、設備投資した事業所の割合は高い。

図表13. 今期の設備投資実施状況

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない	1.実施した	2.実施していない
全産業	8	22	30	26.7	73.3	17.3	82.7	-	-
1. 製造業	1	7	8	12.5	87.5	15.2	84.8	12.5	87.5
2. 建設業	1	8	9	11.1	88.9	18.5	81.5	17.6	82.4
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	10.4	89.6	8.4	91.6
4. サービス業	5	3	8	62.5	37.5	16.2	83.8	10.9	89.1

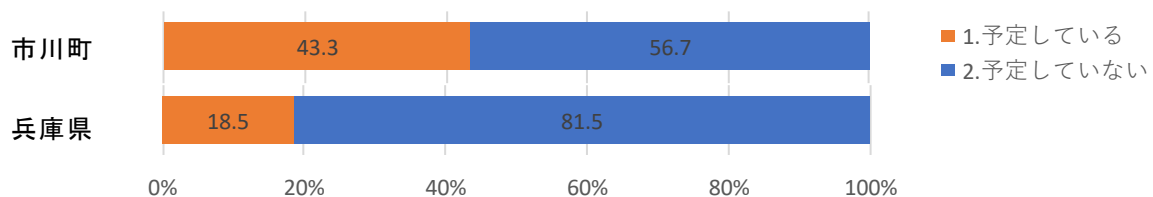


### (2) 来期の設備投資

来期に設備投資を予定している事業所は43.3%と、半数近くにのぼった。兵庫県や全国と比較して、市川町の事業所は設備投資意欲が高いと言える。

図表14. 来期の設備投資計画

	企業数			構成比		兵庫県構成比		全国構成比	
	1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない	1.予定している	2.予定していない
全産業	13	17	30	43.3	56.7	18.5	81.5	-	-
1. 製造業	3	5	8	37.5	62.5	15.2	84.8	15.6	84.4
2. 建設業	4	5	9	44.4	55.6	25.9	74.1	16.9	83.1
3. 小売業	1	4	5	20.0	80.0	12.5	87.5	10.8	89.2
4. サービス業	5	3	8	62.5	37.5	17.6	82.4	14.8	85.2



## 7. 最も優先すべき経営上の課題

今期に最も優先すべき経営上の課題は、事業所によってそれぞれであり回答が分散した。割合がもっとも多かった回答は「ニーズ変化への対応」と「販路開拓・営業力の強化」で、それぞれ16.7%であった。次いで、「資金調達・資金繰り改善」「人材の確保、人材育成」がそれぞれ13.3%を占めた。

事業所がそれぞれの課題を抱えており、個別の事情に合わせた課題解決が求められる。また同時に、優先すべき課題の見極めも重要な論点となると考えられる。

図表15. 経営上の課題

